

**授業概要**

明治維新前後から、1960年あたりまでの日本文学の流れをたどり、この時期の文学の歴史を講義していく。最低限の文学史の知識を身につけることが第一目標であるが、そのためには、文学史と密接に関わる日本近代史の知識も必要であり、また、自ら多くの文学表現に直接触れ、実感することも必要である。授業時間外の各自の自習によってそれらを補うことが望ましい。授業では3~4つの課題作品を指定するのでそれを読むこと。その内容を小テストによって確認する。この小テストは4回行う。

**授業計画**

第1回	ガイダンス／近代とは何か
第2回	近代文学の誕生
第3回	紅露時代・硯友社時代
第4回	自然主義文学の展開・反自然主義
第5回	反自然主義文学の展開①
第6回	反自然主義文学の展開②／プロレタリア文学の勃興
第7回	アヴァンギャルド芸術の波／新感覚派の登場
第8回	プロレタリア文学の展開
第9回	三派鼎立／〈文学〉の大衆化
第10回	新感覚派の展開
第11回	文芸復興・転向文学
第12回	戦時下の文学／〈外地〉の日本語文学
第13回	文学の再建／戦後派の登場
第14回	第三の新人／純文学の変質
第15回	まとめ
第16回	試験

**到達目標**

- ①明治期から1960年あたりまでの日本文学の流れを、様々な事象と関連させながら理解する。
- ②文学表現に多く触れ、鑑賞、理解し、さまざまな表現、認識方法を知る。

**履修上の注意**

欠席しないこと。特別の理由がない限りすべて出席するのが前提である。  
その他のルールは最初の授業で示す。

**予習・復習**

- 【予習】小テスト時には、決められた作品を当日までに読み終え、自分なりの感想、疑問を考えておくこと
- 【復習】その日の授業の流れを自分なりに整理し、説明できるようにしておくこと。

**評価方法**

授業内小テスト 50%、期末試験 50%を目安に判断して評価する。

**テキスト**

- 【テキスト】プリントを使用する。ただし小テストで取り上げる作品は各自入手すること。
- 【参考文献】安藤宏『日本近代小説史』中公選書、2015年